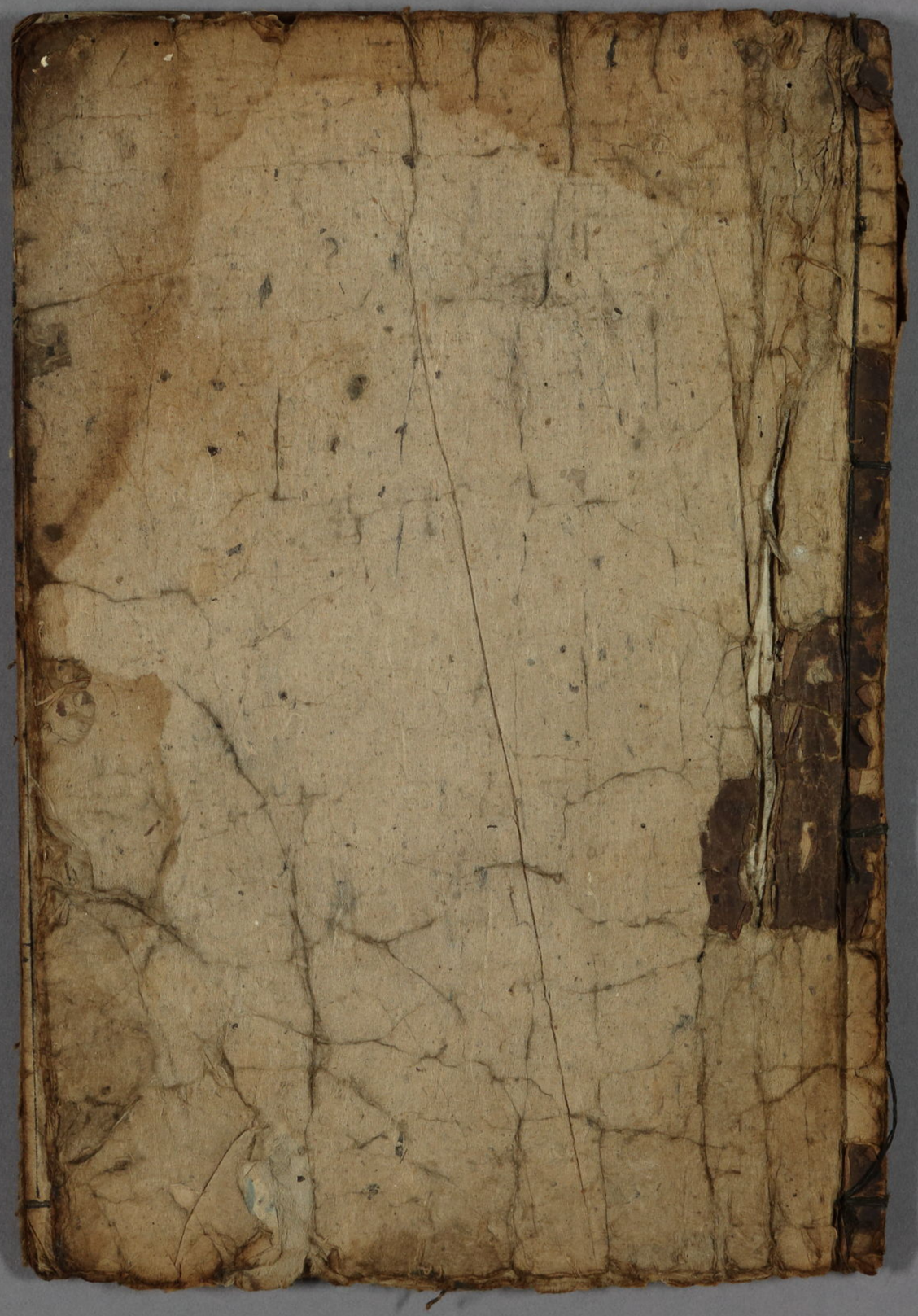


本朝茶陰法事　巻之四

目録

一　腕ハ五文の茨木町
一　一文茶壽の妹背山
一　山葵ハ黄金の吸口
一　喰合を知るべへが淫乱
一　祇見の水鉢ハ清き祈

一利ヨ迷ノ中九帝ヶ猿智恵
一数ヨ功おき醫師ヶ能慢

本朝茂陰比事卷之四目録

本朝茂陰比事卷四

○ 脈ハ工夫の淡木町

名聞言上仕い私儀ないがらしき町ひさ四ノ屋源六ヨリ若ごろ四ノ屋の
夜おれつ付ふ土ぞろ屋ヶ屋敷と切れ書おまへ人ひとふ子おと
時ヶ門ふりやうとうとうぐひふへばくろ六七す切わけ所ひさ一人金
沼入金ひ草袋とひとこかさせんとうとくへやくへ丸中く濃カ
りて振ふ前一ヶ所ヨ仕んれ。おロしてそふひと侍ふ切くふ
ひあよ。所ひさ三ながら通ひ。隣屋敷の娘と宗ふ人ふと光
えんひれおりてまろ血とたふひふふひ方ふれひふひ分立
内ヶ工義ノ中吟味仕ふへ年貢代上納ヶ名相ノ人ヨ沢
ひ内ざりて殺ふ所ひりてかくひく通ふりめ又ハ同類ひふ

一ひろうこかしてくれるせんに太乃序脇指糸仕て出さしたりよし
を恐て吟味を仰付られてわかるてせ[illegible]
そうこの口ろこな　原六郎

月日

北久太乃序脇とは流わるふ太乃ひとりてわるでさうきてす若の
さはかり指てふ稽わるさ一矢おと結る若の私以の平生縁
かるらと指ろふ[illegible]ひとりとえぬれた淫乱すべきひか
うりたり日はを方の家より出入すうるめふ春わるふ[illegible]
はそうひとりたさうわるり飛しうすべきものなり[illegible]
てめ出さるくまそ[illegible]脇はあんぢにわづかるる[illegible]
入を[illegible]べ[illegible]り陣乃田の伯母[illegible]やかぐ[illegible]
いてとくかるど門[illegible]ぐて入[illegible]作付[illegible]

ぐれり内北久太乃序栄中へ四解わりりの八大敵乃指南仕りの才子
乃名を人く強ど書法はのをるべ。ひおるれ才子して
わるひへ他出仕りる。病をふて引込まるる左りの。伯月者日ら
いつくすりそぐりる。病をいつけるより伯やまひと仕と醫
若を伯集と[illegible]若療治仕る陰く微細よ書つけまるべ。を
人りて強一重後日ふわるるにおいて八[illegible]作付らるべ
き陰かとなり大敵乃師弱く才子中と為りるんるる
ふ。弟子数百九十七人乃内。他出て[illegible]若六十九人乃分病
氣より門とりわるもの指を人仕ぶふ書付と指糸[illegible]に
太指を人おいるひとりる療治仕る醫若物ぐどうしせる
ぐを人仕ひとふ病性とあひを[illegible]作付[illegible]

外科の療治にすぐれたる名を上るかのにて名医
人なりと肉瘤ひとつわれて傾城野良狂ひにうかれて金
あれども親の金銀を盗み出し。放埒をつくしかくれける所に
大きに困窮のうらかくのごとく夜盗に入て此罪とからめとられ
のう人似仕置に仰つけられけるとかや

○一丈夜叉の娘背山

是を思ふに上仕合ハいつもの世悴村辰右衛門と申者の妻も此者ハ
辰右衛門身持悪く六つ時にも打死仕候節村ハ見合せ候ら
の後藤一家のさびしきやんごとなき事して女房其外
の世悴の子と言ました事をそこなはゝ何の事を息したくいり
此ハ辰右衛門そのはくおくさわがり。其かにて呼としてひよ

されども此ハ定業なれども不興よりてはてゝ言ひなし平内
すゝみかけき此中のよろこびと喚声つけて又れんよりあとそ
ハ子どもの隠し女房ですでわか中ぐひわかれたりとて殺しけりて
ほうそまへもちぐるしむとつけたる仕合にわきわかくさ其眼
書きのまゝにてかの女をひきずり出し此人ハ其丈夜叉をとられてゞ付きて
ておもひ込此人ハ辰右衛門をはてゝとわけあく打擲しむ辰右衛門二
人をそめ此夜叉のちへ寄され其ハ云と申てあへて此人をも惑ひてしに
良とらうてかやうのまてにて捨七事の刑罪とかすて仕あまる
あまりてやうま此事にかの女を敷たるのうへよしみのやうに縛つけ
られ下されしにあはれて更に此上

月日

辰右衛門
書

此故に佛ハ男子とうまれてハ天子と諸侯人乃后妃あるハ公卿大夫よ
士民又人三人あれバわれその中の平人にてなまあるのか妾となりてハ六
むつまじきまじはりもおのれとさりしく猥之縁となり縁ハかねてむ
く其乃家に嫉妬の女われハその家乃おもて嫡ぐしく古語のいふ
繼くりあるに私てそ継ぐる時ハおもうて二世のちぎりおすくれ
あれて其の君を失ひ嫉くされども女らしくもあらそ共が施りめ
今ベしとの仰あつパかうでて上けるハ辰左衛門も一所におあつてへ
くまて打擲仕りしへバ佛もを雑談仕りしが。おのれか
仰つけられ下されかくて孫ぐひけるハ下僕人亂をまうしけるされ。
を同じうけれバ辰左衛門がさまつりて縁ハ此田村の
百姓とて一所の秋篠にて其累(?)遠まで

ひざまづきて仏に懺悔邪見のかく傍かぐれも悠人の娑婆
衆生の業をも懺悔して公案の罪障を評しかけて所縁のく
さとりの發心ハいまだ定業にわらくをず
も。私死骸ハ火葬仕りて愛惑の中ぐるぐる
われ何遍わお墓隣村の辰左衛門が死骸を荼毘
あらくそぐ。辰左衛門ハ定業にあたりてまかりされども。おのが
死骸に私が魂魄と入替り
ゆうらし。魂魄んで此村の者に物語せんゆへ
れども我のまうしたてまつり今正気つきて
此の女房が立腹しなのりそめ
おのれそのうへバ

俵人会しまれ[illegible]後のまを折て[illegible]
辰まつが女房さやこ乃こりの公こてわれこ此なりこそこの男乃こ
やれじ和へハやうゆ[illegible]こ[illegible]角金つが女房ハわの世この世れ和[illegible]
を世ハれて[illegible]んこ[illegible]ひよ[illegible]こ[illegible]わこりゆれこ[illegible]
らひこて今てこびはあへ世こ[illegible]
まハ[illegible]こ[illegible]
こ[illegible]こ姫村[illegible]村あ[illegible]
と女房二人一ハよ和[illegible]
入て[illegible]

○ 山[illegible]ハ黄金の吸口

[illegible]

目[illegible]尚こ[illegible]
[illegible]
小[illegible]
[illegible]
三[illegible]
[illegible]
[illegible]

月日

[illegible]

ぞしあるであり。縮緬類ハ織もさ京蒋へ渡め重たのつゞきハ吉かぎ
も綾乃方お涂つけ書状及右左下男の名強もだつ入金ぎとし
重おもれわ内ハ名の[illegible]もしや上けまハ。さてハ盗人[illegible]まりて[illegible]
月にとり。何とぞ是ち人さるひいまとすくそで故る[illegible]わら身わ
ゑいしかまとての為われた気の次第ならてしま[illegible]めけ
やうわり今一あるねもちかの盗人たきてらぐるよおかそハ当方言て
ちうりよ坪くぐすたの山葵売捕。ち方が宿坊に仕るべしと[illegible]
ワされてゆるけるが二三百るてもぬ法なけれでぱかの山葵を売
けのたまも捕所焼ても法なれど。藍類そやら城下まてむかのわかひび
の重渡わり。一つ二ふ三てる法乃坪傍よあり。三俵と合み九捻七歩
三歩ふ売てるひ半の法ぐらを今乃山葵ぬ家の人あうくん

○喰合(くひあハせ)を知る酒入(さいよう)が注心(ちうしん)
名医云上仕には摘海後(ぜつこう)ハ[illegible]乃[illegible]村ね陰(いん)乃[illegible]てすま[illegible]虎(こ)を
ひまび二三とを居住仕乃貧傍にて[illegible]年生挽弥仕先合下送
星くども。西風雷乃日ま六[illegible]乃かの[illegible]合(ぐう)てしん[illegible]そ[illegible]月
あまふ密く。ひとえの[illegible]ぐ人もゆ[illegible]とあるぬが[illegible]の[illegible]摘一つきれ
わうそと事よ出家(しゆつけ)て[illegible]代摘ままうえづつ[illegible]て仕の[illegible]を夜と[illegible]
きかは世乃[illegible]とうりふ處(ところ)の論を坪しやがり。ホ人役乃[illegible]とゆるを
故摘の[illegible]すうつさあけのそざさ[illegible]夜盗の節まそ前くさ
ぐしくとも。第一織もえまめ在あく。[illegible]てまもしの[illegible]合され
とりがわてるる[illegible]め乃お[illegible]えせまし私退ましく摘乃[illegible]て[illegible]
引おけ。さてふ[illegible]なりが[illegible]まそ[illegible]人としずり出しくあまく

をゝさてハ亡君よりかゝる。此度のありさまにて。色さゝよりやうの願ひ
命乃儀ハ御ゆるしくだされと仰せ候ふへハ。ありがたき宥免仕り下され
物のお覚え仕りてくださるも。一旦叡慮にかなひ奉るべき大恨て。風情ならば
しそうなれハ人ハ。御業とかくてまゐれば。御とらへの人あれと各月ゞ
し。ちかき将軍のうへ。僕に其身をあはせハいまさらハ命のハかなき人
とゝまりしのおかわりてまつり。よ。これおほせつて。其身の源氏の白鷹ハ仰ら
やとりてびくぞわかそのと入りて。やせハ。よき事ありて。徳ありてかゝ
ちうとくまゐり。奥方と賞てまゐれし。勝入ハ毛をひけかざく。繁昌
あの儀よ。これひ。仰せて迷惑仕りぬ。なれば入ハ。てひ仏かよ入るを。濃に
ひとなく。盗賊乃被官に鍛へ。わたつさへ。奥方乃けをすてくり
現世後生怖しく。辞退仕りなハ。前をそえねばならぬやうれあひくら

いよいよくみどの兄。浮世とさまなり。一念ひるがへし。弥々今は亜へもさざ
まりて。是のありさまの日限ハ。まれしやうすんでなくて。是の仕つ。わが
往生をとげ。上品る。後人への為ばかりに。此段越て。あとよりわかりてて
書おくもの也

月日

乃陰居
西入判

此ゆゑにかく申けるはなお振舞かやうなる事をゆるされたるにと
盗賊としらずつけがて。あたら盗とするるを見まゐらせ。御ゆへに糺し
捜よおかべき儀わくてすぎまでなるべくして。所従ハ所を盗めて
入ハなおとゆかりをもちけり。それより十二三ヶ月くらゐ。此次第役鉄砲入り
丁の内。又提夜のうちに寄てありすわりのうくれ。捨てあれ出し
ゞて。此者入とひそかにかよひ。其後それより

いかなることにはあらんと。今はわれさへ
子南の簀垣とゝ門ずゝの入玉ふしと人よりはなすあり
とゝもをハ不ゝ寝ずゝ。彼人ゝ云ゝ
今味わるゝ。例の俗法物語ゝ
まゝり涙ゝに若ゝゝゝ作つのれけるゝて
夜いつもゝ組ゝゝゝ人ゝゝ
糧ゝ仕けて服すれどゝ
ゝしゝゝ亭ゝ
て悩む若ゝ人絶入ゝゝ
ゝれゝゝゝ

○形見の水茎ハ清き

名悪ゝ上仕ゝ私ゝ南町ゝ
若ゝ
わりゝ
水茎ひゝ
今ゝ
とゝ
ゝ
まゝ
うゝ十二三町つけてまゝりゝ
ゝ
ゝ

まつバ光門に入たる人々らじつるすなれしと申も古郷乃あさあさ人もやさ
しらさく々ハ此すゞきん上やとてハ教すれ九右衛門が魂ぬれなどがみ
秘義おせしを石みれど頻又対面の心にてくろぬよろしかりしや
とてもかくも答すれど船の下へ招きその二人とやうゆきよりかの
外よ言さと換じて此方賞求めける主なりそのかハ何りのやうん
あさぜんとて元わひよろずあるなる右ところゑうとけれ持ちゆりはやされ
乃喜悲よよ御郷村とわたてわるくて大事なりしと上

月日

江戸大宮 判

地方御所状にらんありて申しくこれ盗人にゆるひあきさとやうく
くあう御沼のおもむきごめづらしくお役しもの町役人とやうつ安うり
ましたへられ町内家主へ内法けとけわりがかの所主へお渡りし
よびさうし仰つけられけり六右衛門乃無の所をひやしぶし苦へてくらく
めの云よ石を居て坤りけり段や上ける　みな人の屋敷よ理を益にこ魂
ここにおくりかしよ右衛門さらへ江戸とハ望みよまいられしなりとて
家主へ内めづけれとしまで戊居又御沼よ出さく内宿家と称ひけと六
おそよの新ひよまうせ廿日むかりわりて此宛とかうさりぞそ出あさ
なりあ老なりとて内出入を仰付られけりとよ

○ 利に達の末九郎が猿智恵

る悪云上仕候。私儀ハ大南町末九郎と申者にて此役かあくハ
身広く商ひをして住候所先へ奉公に出勢まつき門辺屋主人の
丈内家中乃ほうがあしかの方より業の後九兵衛様お頼母も
退内りし元の所私共人に渡ししお主あ家まよらお申なれとれけ

ら人町々まで作法されて天下にならぶ人なきと云縁を求めて[illegible]
そのころより故法諸商人職人に至る迄自然と通りかけ[illegible]
是ハいかにしても家業を守め。為出し其上九進の相場[illegible]
さまざまの人ハいづれも人の様までありて無上に取かへし。書[illegible]
勝負をするずると難儀仕人のおぼつかなく思ふ人にハ白ほうハ此家中の[illegible]
云人ありて百人にも及べき其上算者ハ人まで諸合ならびにこれより諸人合ふ[illegible]
を簡板と出して発ける諸師付られてかならずこれより以上

月日

天満町　中九郎判

此書をひろめられし事今まで世上一統の諸人の猶[illegible]
云人の勝底を続なしておぼへ又ハその勧義を存ぜざるもの[illegible]
ハ下諸とふものと見て諸合ハいてすべてと見て志る[illegible]

諸人店の算板を出して勘定とかまへども生得[illegible]
諸最の諸人間屋なりとて其上人ハ他国よりの人を聚して[illegible]盤を
を作りてかけ算をするなれバ類神とて諸わひとつとするハなくなりとも
なくさめなるべし。されバ夫々の其で吟味を遂るかぎりの作[illegible]
されバ私の幼より京大坂長崎までかけ廻りてハ右の人の[illegible]
と見て算盤を揃るものと目利仕りたる遠方まで[illegible]
より此作しきハ人とするハむしろより明眼尊の名師より
わかれバ志のなりとも安ふてより鯉ハ鱗をみて大小を志る。合を
見てもつておかるを一と拳て三つと明をハ上手の算なりとくを
子乃善悪となるハ親よ志るとも云元其れを志るもの天下よ
鮮く孔子も流かふ。これ恐欲に溺ることとめて[illegible]なりとさるが故

ありしがなる程生方かくしめでたき家の腹中ともかくに内證達人が
ならびなき土地の織仕る賢なる眼にハ浅き人の足ぶみを見つけ
ひがつて此ふ小は接拝の智者ありしが当方の所状にみつけし意
微塵もなく若し手の者人々の清くして只人に元逸宅落ぬされし
露も出会と雑用かさま人銀をまで男女を請を出しても貧や数百人の
請合のうちにハ見ん所にひどうて申しもむ人にもわづかけ十六人も三人定落
に逸わるべき時ハ其の愛隣を除く次べきに合銀ハ下ほどにして少ながら
われ又ハ後も子別仕置人ハ多し元逸仕の失却と同時も八借と
よめどかりの四五百人とも傍ひ人だにおどろびの後ゆへわづか修り金
まで歩つて元わつめしゆても五十両七十両ハお逸ある中のゆくさまか
ぎりて御出されしハいまだ十人廿人ずつ請よつてぞやがて二人三人

うらの者も百両五百両も元逸して古時ハ人別の給金を皆わつめても
不足すべしその時ハ何をもつて天ぶの後へ申さるべきぞと仰
まゐりしハ返答にこまつてかさねて病人屋の合の付を只見え仕かけ人を
仕遊ひ上べしとて尾もなくおそれ承けるとなり

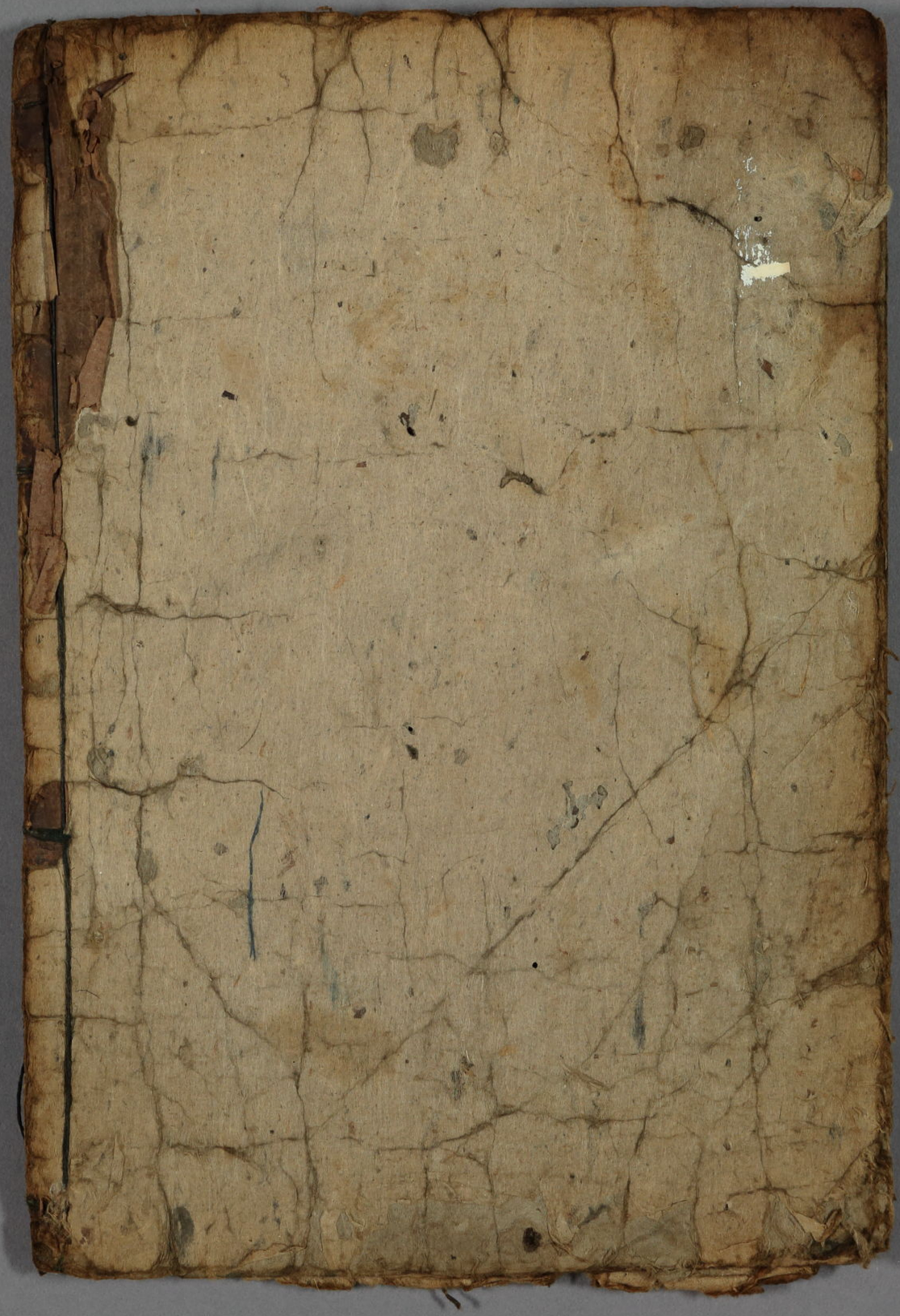
○藪よ切なき醫師が自慢

名医と云ふ上仕の私儀ハ今町中の無屋敷七とや若ひ也近年
六もかやなの花のやうかる世俗ぞとも今ほとの天性利根発明
にて生れつきなりいかさまにも大文字をひろいするから氏神天罪
に掛ありや千万人ずつまでもなく二事の人々はハさこそ治て発人
とも化後よも及ぶべきかさどハ是にも治生も縁に入ると見ても
きず頭として男もやらはへ切をも先ある秘藩仕る方のしかれ処

ふぜ程腹中とゐ炊人屋夜なべ
ゐ稼仕人ハ町内ゑ大藪玄蕃と
いされ今乃世の者婆庵龍
ゑつさ世粹ゞ療治ゑのこゝ人
ゝハそのゆくそぐりまぐ
さて留てんせゝんそ業と法りゝ人ハ
ゝりゝして三百のちふかも牧
うのりゝ人ハ公醫者ゝくもの
病と垂せゝゝゝ
乃勇ゝて法人大切のゝのゝとうけ
ゝ科人とゝゝ

百出蓋醫ゝかゝゝ
月日
地方ゝゝゝゝ醫療乃ちゝ
醫療ゝ
来代の醫者といひ元人ゝ
ゝ人代金と法ゝ
ゝ乃名ゝ
ゝ流派の者ゝ
ゝ乃名ゝ
ゝ

て醫の主と仕り大切の命根と然ハ税と費を頓着なりとし
かゞくそくへと殺さんとするにあわてず主人へそもそも強氣わ
までもあれど誑らして自儘の山を貪えんとすれどもさらに二途の
て汝が世悴を殺しけるハわかねど欲とえいふ外細ハおかしき事なり
玄鶯と召出され死刑に行ひありけるもかしまりて十二けれバま
此ものよ腹中をこはらせんとするゆへ罌粟穀と一味用ひしへハお妹と夜
ひよひあれハ又腹がへるとおまえてさのゆへ巴豆と用ひておのれぞへく
へバみくびりすぎるとてゆへ私が存と出し罌粟穀ハ巴豆と二味
調合仕り用ひましたぞ例の巴豆ハそうんくといふて罌粟穀ハとらん
くとふさぐ故に薬力の威勢とあらそひ腹中にて禍らわひ絶わハ
上と下へとかへし処へ耳ずなとわかりかひおいまして和腫てこそ仕上べく

夜すがらまた病人温氣の付るに三日三夜絶食仕りしさんく苦しみけるま
りしが病のかれ注生て遂にゆうへハ此方へ取らへハみな然まそうとも
よって此後も色あひゝもれけるはき療治せんと及びてそろ湿ありし向
後ハ世上の着眼とわきまへて醫療とそのぶべしと自然の薬を相撰
ありとて醫者かてきよ仕るぞ。今時庸醫の前ハおろそかにしておら
仏理の法理とさけぞ。非業といふ死ハなしとのや。汝が世悴も定
業としそんじ給ひわきまへて。遠眼とむもれるべからざるもの。そ
てく。

本朝及隋比事　卷四終